

**京都大学東南アジア研究所**  
**創立 40 周年記念シンポジウム**  
**東南アジア研究の継承と展望**

創立 40 周年を記念して、京都大学東南アジア研究所は国際シンポジウム『東南アジア研究の継承と展望』を開催します。1965 年に創設して以来、本研究所の歩みは東南アジア地域研究の発展そのものでもありました。そこで本シンポジウムでは、東南アジア地域の著名な研究者、東南アジア地域研究で世界的に有名な研究者を招いて、東南アジア研究がこれまでどのような歩みを経てきたのか、どのような知的・社会的役割を果たしてきたのかについて語ってもらい、東南アジア地域研究のさらなる発展のために何をなすべきなのかについての展望を自由にお話ししていただきます。

どなたでも参加自由ですので、東南アジア、さらにアジアに興味をお持ちの方は是非、ご参加ください。

**会場：京都大学百周年時計台記念ホール**

**日時：平成 17 年 10 月 28 日 午後 1 時～4 時 15 分**

**プログラム** [講演と討論は英語（同時通訳付き）で行われます。]

**13:00-13:15 開会の挨拶** 田中耕司（京都大学東南アジア研究所所長）

**13:15-15:15 講演**

13:15-13:45 シャムスル・AB（マレーシア国民大学）  
「マレーシアから見た東南アジア研究」

13:45-14:15 レイナルド・C・イレート（シンガポール国立大学）  
「フィリピンから見た東南アジア研究」

14:15-14:45 タウフィック・アブドゥラー（インドネシア科学院）  
「インドネシアから見た東南アジア研究」

14:45-15:15 チャンウィット・カセートシリ（タマサート大学）  
「タイから見た東南アジア研究」

**15:15-16:15 討論会**

15:15-15:25 山田勇（京都大学東南アジア研究所）

15:25-15:35 テリー・ランボー（コンケン大学）

15:35-15:45 白石隆（政策研究大学院大学）

15:45-16:15 質疑応答

## 講演者

(名前左の括弧内の年次は同研究所の  
教官或いは研究員としての在職期間)

### シャムスル・AB (Shamsul AB) (マレーシア) (1989～1990)

マレーシア国民大学教授、マレー世界・文明研究所  
所長及び新設の東洋研究所所長兼任。専門は社会  
人類学。博士号をモナッシュ大学で取得。東南アジア  
に焦点を当てて政治、文化と経済発展に関する研究  
を行っている。英語とマレー語で数多くの著作があり、  
世界各地で精力的に講演も行っている。マレーシアの  
現状についてのコメンテーターとしてもマレーシア内  
外のメディアにおいて知名度は高い。主要作品である  
*From British to Bumiputera Rule: Local Politics and  
Rural Development in Peninsular Malaysia* (1986)は、  
歴史学・人類学的手法を用いてマレーシア西部の村  
の政治を描いた労作であり、評価は高い。

### レイナルド・イレート (Reynaldo Ileto) (フィリピン) (1991～1992)

シンガポール国立大学教授。専門は歴史学。フィリ  
ピンのアテネオ・デ・マニラ大学を卒業後、コーネル大学  
で東南アジア史・人類学の分野で博士号取得。フィリ  
ピン大学、ジェームズ・クック大学、オーストラリア国立  
大学で教鞭経験あり。主要作品の『キリスト受難詩と革  
命：1840－1910 年のフィリピン民衆運動』（邦訳あり）  
（ハリー・ベンダ賞、大平正芳賞）では、植民地支配に  
対する抵抗思想とその行動をフィリピン民衆の視座か  
ら見事に描ききった。2003 年、福岡アジア文化賞学術  
研究賞受賞。研究関心は、宗教・民衆運動、タガログ  
文学、大衆文化、農村史、東南アジア史の方法論と幅  
広く、現在、フィリピンにおける歴史と国民形成に関す  
る書物を執筆中。

### タウフィック・アブドゥラー (Taufik Abdullah) (インドネシア) (1989～1990)

インドネシア科学院研究員兼ガジャマダ大学教授。専  
門は歴史学。コーネル大学で博士号取得。インドネシ  
ア科学院において、経済社会研究所所長、同院院長  
を歴任。現在はインドネシア科学アカデミー社会科学  
部門メンバー。インドネシアの歴史に関する多くの著  
作を記すのみならず、地方史研究者の育成にも多大  
な貢献をしてきた歴史研究の代表的存在。主要な編  
著作は、*School and Politics: the Kaum Muda  
Movement in West Sumatra, 1927-1933* やインドネシ  
アの各地に展開するブサントレン（寄宿塾）の態様を描  
いた編著『インドネシアのイスラム』がある。

### チャーンウィット・カセートシリ (Charnvit Kasetsiri) (タイ) (1977～1978)

タマサート大学元総長。専攻は歴史学。コーネル大学  
で博士号取得。1973 年学生蜂起の際には学生活動  
家として参加し、1976 年の国軍クーデタ後は本研究所  
に自主的に亡命した。タマサート大学で副総長、教養  
学部長を歴任後、総長就任。また、タイで初めて学部  
生向け東南アジア・プログラムを創設した。2001 年退  
官後も学者としてまた活動家として多彩な活動が続け  
ている。最近ではタイ史上もつともラディカルな知識人  
の一人として知られるチット・プーミサックの基金設立  
プロジェクト・コーディネーターとして尽力している。主  
要著書には、*The Rise of Ayudhya: A History of Siam  
in the 14th and 15th Centuries* がある。

## 討 論 者

### 山田勇（日本）（1965～現在）

京都大学東南アジア研究所教授。京都大学農学部卒業、京都大学で博士号取得。専門は熱帯生態学。東南アジア島嶼部の熱帯雨林研究を基点として、東南アジアとの比較の視座から、世界各地の森林生態系の変遷や地球規模の生態系攪乱史などに研究関心を展開させてきた。風土を見抜く卓越した観察力とそれを文章として表現する筆力には定評がある。代表著書は、*Tropical Rainforests of Southeast Asia*。日本林学会賞、大同生命地域研究奨励賞などを受賞。現在、日本熱帯生態学会会長。東南アジア研究所設立当時から現在までの動きを知る唯一の現役教授である。

### 白石隆（日本）（1996～2005）

政策研究大学院大学教授兼副学長。専門は東南アジア地域研究。コーネル大学で博士号（歴史学）を取得。東京大学教養学部助教授、コーネル大学教授、京都大学東南アジア研究所教授を歴任。昨今の研究関心は、東アジアにおける地域主義・地域化、東南アジアにおけるテクノクラシーの比較、インドネシアの政治・経済・文化など幅広い。主要な著作は、インドネシア民族主義運動の理解に新しい視点を切り開いた *An Age in Motion*（大平正芳賞、1990 年）、インドネシア政治研究の古典『インドネシア 国家と政治』（サントリー学芸賞、1991 年）、『海の帝国』（読売・吉野作造賞、2000 年）がある。

### テリー・ランボー（A. Terry Rambo）（アメリカ合衆国）（2000～2004）

タイ・コンケン大学農学部作物学科特別教授。専門は人類生態学。ハワイ大学で博士号取得。1980年から2000年までハワイ東西センター研究員として、環境プログラム部長(1992-1997)、東西センター・ベトナム駐在代表(1997-2000)を歴任後、京都大学東南アジア研究センター教授に就任。1960年代から東南アジア各地で人類生態学に関するフィールド調査を行って生活・生業の変容や開発過程に関する多くの著作を発表し、国際的に高い評価を得ている。最新の著作、*Searching for Vietnam: Selected Writings on Vietnamese Culture and Society* は、これまでの研究の中心であったベトナムに関する長年の研究成果を取りまとめたものである。